

食性と採餌環境、行動圏等の現地調査を行う。

ウ 典型性の観点からの生態系調査例

「動物」及び「植物」の調査結果より、調査地域の環境区分ごとにハビタットマップを作成する。そこに生息・生育している動植物種について生物の相互関係を考慮し、各環境区分を特徴付ける注目種等を整理する。また、必要に応じて動植物の現地調査を行う。

エ 特殊性の観点からの生態系調査例

「海生動物」及び「海生植物」の調査結果により、調査地域内の特殊な環境で生息・生育している注目種について、生息・生育環境を整理する。また、必要に応じて、該当する注目種等の生息・生育環境について現地調査を行う。

### (3) 調査結果

調査結果は、「上位性」、「典型性」、「特殊性」の各項目ごとに、一覧表に整理する。

- 上位性：選定した注目種の主要な生息域（繁殖場所、高利用域、行動圏等）について、図表に整理する。
- 典型性：地域の環境を動植物の分布等から類型化したハビタットマップを作成する。
- 特殊性：選定した注目種等の行動圏、繁殖地、餌場等について、図表に整理する。

### (5) 重要な類型の選定

重要な類型の選定に当たっては、次の点に留意して調査・予測・評価の対象とすべき類型を選定する。

ア 事業により、一部又は全部が消失することとなる（または他の類型に置き換わる）類型（埋立・干拓など）

イ 事業による影響が及ぶと想定される範囲（影響予想地域）に含まれる類型のうち、次のもの

- (ア) 当該海域の生態系を特徴付ける類型
- (イ) 生物生産や浄化などの重要な機能を有する類型
- (ロ) 特殊な環境に依存する生物がみられる類型

ウ 影響範囲外の類型でも（例えば当該海域で成長した魚が海域外の別の類型で産卵するというように）、影響範囲内の類型と密接な関係があると考えられるものについては、評価の際に配慮する。多くの底生動物のように幼生プランクトンとして移動し、他の海域と密接な関係を有するものについても同様である。

### (6) 対象とする生態系の構造・機能の概略検討

評価対象とする海域生態系の構造は海域の類型区分図を基に、類型内の生物と環境要素の関係、生物間関係、類型間関係などから検討する。その際、生物の海底基質や海底の空間構造（砂泥底・岩礁・藻場など）への依存性、生物間の食物連鎖関係、生物の生活史などに配慮することが重要である。

海域生態系の機能については様々なものがあるが、類型別に重要と考えられる機能を参考として表14-8に示した。生態系の機能の検討に当たっては、事業による影響の内容、対象海域の生態系の現状、対象海域の自然的・社会的な地域特性などを考慮して検討し、評価対象として選定した理由を明示する。

なお、海域生態系が有する機能の重要性を検討する際には、次の点に留意することが必要と考えられる。

- 人為的影響によってある機能が損なわれることで、海域生態系の健全性に影響

